

HCDアワード ベストプラクティス推薦書

*は記入必須事項です

事例名*	いつれかを削除*	記入者氏名*	記入日*
京セラ株式会社「すぐ文字」機能開発における人間中心設計	他薦	早川誠二	2014年 12月 30日
<p>推薦理由*： HCD活動として優れている点、今後のご自身の活動において参考になる点などを記述して下さい。 (本事例はHCDライブラリー第3巻「国内における人間中心設計事例」第4章の内容にもとづく)</p> <p>理由：従来、「お客様満足度の向上」、「ブランドイメージの向上」および「差別化商品開発」はHCD活動の効果としてあげられているが、本事例は「差別化の先進技術開発（より魅力的なアイデアに焦点を縛った先行開発により投資効率が良い）」、「コスト削減（上流工程での要求検証による後戻りの少ない開発、活動定義による投資額の明確化、市場対応費の削減、プロセスに沿ったチーム活動による日程の遅延・追加投資の発生防止）」という明確な効果目標も同時に設定し、目標を達成することを通じ「次の購入に繋げる」という大きな目的を達成している</p> <p>参考にするべき点：個別の製品開発工程の前に位置づけられる開発の上流（共通開発工程）にて、HCD活動を展開し効果を上げている点</p> <p>・本事例は、共通開発工程の先行開発工程において展開されたHCD活動である（表1. 商品開発プロセスにおける工程一覧および図1. 商品開発プロセスとHCD活動の効果）</p>		<p>ISO9241-210で規定するプロセスの特定*： 5つのサブプロセスの中で該当する部分を特定し 活動の詳細をご記述く各サブプロセスにおいて既存のHCDに関する手技法を効果的に活用している（ここでは、「すぐ文字」機能の先行開発工程の中での活動を示す）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期検討段階では、ペルソナを設定し、差別化ポイント・コンセプトを検討し、プロトタイプを作成評価している ・詳細検討段階では、仮説を整理し、差別化ポイント・コンセプト・アイデアを整理検討し、ユーザー体験の目標を設定している ・ユーザー評価段階では、シナリオだけでなくペーパープロトタイプ、デジタルプロトタイプを作成し、受容性評価、ユーザビリティ評価を行っている ・改善項目検討段階では、指摘項目のウエイト付けを行い重要度の応じた改善を行っている 	
<p>最終成果物の概要*： 概要を説明し 成果物を示す画像を貼ってください。ウェブページの場合はURLを明記して下さい。</p> <p>「すぐ文字」とは、従来の携帯電話は待ち受け画面（メイン画面）でキーを押下すると電話番号が入力されていたが、キーを押下すると文字と電話番号が同時に入力できる状態になり、電話番号に発信、入力した文字列をメモ入力、カレンダー入力、メール作成、Web検索などに使用することができる機能である。（図2. 待ち受け画面におけるキー入力時の画面遷移）</p> <p>「すぐ文字」機能では、数字キーの入力は数字だけという概念をくつがえし、文字を直接入力できるため「メモをしたい」という欲求に対して直感的な操作が期待でき、文字入力を起点とした数多くの機能（サービス）の手軽なポータルとして利用可能になっている。今まではメモ（文字入力）機能は機能を立ち上げるまでの操作が面倒であったが、この機能の実現によりユーザーがふと思いついた言葉や忘れたくない言葉など、携帯電話のメイン画面を開くだけですぐに入力可能になった。</p> <p>次ページのウェブページ参照のこと</p>		<p>専門家としての評価*： 評価するポイントやできばえ、表彰による波及効果などをご記述ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の手技法を活用しても、従来の概念をくつがえす操作（顧客提供価値）を創出できている <p>波及効果として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HCD活動が開発に役立つことを技術者に理解させることができた ・メンバーのチームワークや士気を高められた ・経営幹部にHCD活動による効果が認められ、以降成果を期待されるようになった <p>同意事項*： ご推薦いただいた事例は、推薦者名と共に、HCD-Net内で公開いたします。公開の可否について、以下のいつれかを○で囲んでください。</p>	
<p>受付番号：20</p>		<p>承諾する</p>	

事例名*	参考資料：以下の欄内に添付してください。画像は合計1GB以内にしてください。 (必須) 本申請に記載されたプラクティスの成果物(製品やウェブサイトなど)の画像。 (任意) 本申請に記載されたプラクティス事例が紹介されている新聞・雑誌・ウェブページの記事や論文など。
京セラ株式会社「すぐ文字」機能開発における人間中心設計	

- Webサイト <http://www.kddi.com/yogo/%E3%83%A2%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%AB/%E3%81%99%E3%81%90%E6%96%87%E5%AD%97.html>
- Webサイト <http://www.kyocera.co.jp/prdct/telecom/consumer/l01/guide/guide27.html>

工程番号	工程名称	詳細	種類
①	ロードマップ(戦略)	流行情報、商品戦略、知的財産戦略、技術戦略、部品戦略などから構成する。	企画開発
②	部品開発	差別化部品、共通部品を開発する。内製、外製、購入などを検討し、決定する。	
③	プラットフォーム開発	機種、商品に基づいてプラットフォームを開発する。内製、外製、購入などを検討し、決定する。	
④	先行開発	商品検討のベースとなる技術の調査、研究を行う。新商品のベースとなるコンセプトをデザインし、評価する。コンセプトを評価するためのガイドライン、規定などを作成する。個別商品又は個別商品群の方向性を立案する。本工程では製品仕様の企画案を構築される。	
⑤	製品仕様開発	商品の方角性に基づき、個別商品のコンセプトをデザインする。外部仕様(製品仕様)、ユーザインタフェース基仕仕様を策定する。	技術開発
⑥	開発要件管理	製品仕様、アキティクチャなど基に開発要件、開発条件を決定する。	
⑦	製品開発	開発、評価、出荷を行う。	

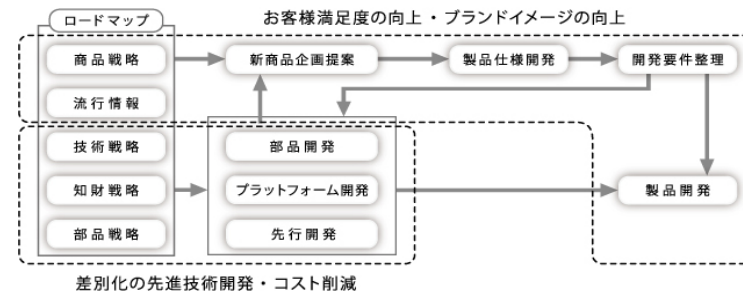


図1 商品開発プロセスとHCD活動の効果

表1 商品開発プロセスにおける工程一覧



図2 待受け画面におけるキー入力時の画面遷移

受付番号：20